

ゆいのもり通信

所在地：〒196-0011
東京都昭島市上川原町 1-9-15
電話：042-542-5160



「ゆいのもりの「いままで」と「これから」

ゆいのもり福祉協会理事 池田 正 (前理事長)

わたしの好きな曲にNHK「プロフェッショナル・仕事の流儀」のテーマ曲「あと一歩だけ、前に進もう」があります。そこで、一歩ずつトライアンドエラーしてきた人を紹介します。

今から30数年前、世の中はバブルに狂乱していた時、なにか生き辛さを感じていた若き日の浅川理事長です。西日の強いアパートで、一匹の焼き魚を数人で分け合い共同生活していたそうです。「ゆいのもり」の誕生です。それから10年ほどたった2002年(平成14年)には社会福祉法人となりました。

ゆいのもりの基本理念「障がいのある方々が地域で、自分らしく安心して暮らし、安心して働ける、温かい地域づくり」を実践すべく、日々格闘しています。現在186名の登録者と常勤・非常勤職員等スタッフ総勢52名の大所帯になりました。

ゆいのもりの強みの一つが、職員定着率の高さにあります。数人が、子育てしながら勤務しています。そういった風土が、今後一層厳しさを増す経営環境にも対応できる原動力となるでしょう。経営する立場としては、それに甘えることなく安定した給与体系に注力しなくてはなりません。

この10年間でゆいのもりは大きく羽ばたきました。経営面で特に力を入れてきたのは、「就労支援」のほかに「生活支援」としての「グループホームの運営・拡大」と「当事者への計画相談事業」の充実でした。経

験・知識とも申し分ない方々との出会いもあり、実現することができました。

さらに安定収入を図る為に、作業スペースが狭い田中町事業所の移転に着手しました。2016年(平成28年)、事業所移転計画を理事会決議し、法人事務局長の田中さんが中心となり、ご苦勞を重ねたうえ、7年がかりで、ゆいのもりに理解のある地主さんと巡り合い、市役所から近い未開通の都道に面した土地(40年間の定期借地)に、食工房より少し広めの新田中町事業所「ゆいのもりわかば」がもうすぐ出来あがります(3月に竣工式の予定)。建築費用の4分の3を国・都の補助金でまかない、諸経費も含めて残る1億4,300万円は、積立金と賛助会の寄付金で対応します。これで、経営上立派な三本柱になりそうです。

当事者の立場や家族の立場からみた「ゆいのもり」については、次の機会にしましょう。

目次

◆「巻頭言」「目次」	P 1
◆「ゆいのもりわかばについて」 「就労移行実績報告」	P 2
◆「利用者意見交換会」	P 3
◆「産業まつり」 「メンバー投稿」	P 4
◆「メンバー投稿」 「共同募金からのご寄付報告」	P 5
◆「斎藤真澄さんありがとうさようなら」 「編集後記」	P 6

ゆいのもり田中町、移転！2024年4月から、 「ゆいのもりわかば」に変わります！

ゆいのもり田中町の現施設には、課題があります。それは、更衣室や、独立した相談室がなくプライバシーを守れていなかったり、休憩室や作業室が環境的に狭かったりすることです。

これらを解決するため、ゆいのもりに通所するメンバーにご意見をいただきながら、田中町所属の職員を中心に全常勤職員で話し合い、イメージを共有した結果、意識したのは「スペースの確保、多くの希望者を受け入れられること、地域ニーズにこたえられること」でした。

その過程で、具体化されたのが次の3点、①就労継続支援 B 型に加え生活訓練事業を行うこと、②現在はゆいのもりつつじが丘に併設している相談支援センターを新施設に併設すること、③建物自体は、オフィスのような清潔感がある場所を目指すこと、でした。



また、この移転を機に、施設の名前を「ゆいのもりわかば」に改めることが決まりました。『利用者の皆様が、作業や体験を通じて自身を成長させる(芽が出る)お手伝いをしたい』という思いを込めました。

2023年10月14日には上棟式も盛大に行われ、順調に新施設の建設が進んでいます。新しく生まれ変わる「ゆいのもりわかば」にご期待ください。

(ゆいのもり田中町 近藤貴代子)



就労移行実績



2022年度は、合計で3名の方が就職しました。職種は、一般事務、交通誘導、飲食スタッフと多岐に渡ります。

メンバーにはそれぞれに働き方のニーズがあり、就職活動のスピード感も異なっていたため、ひとりひとりのペースや希望職種に応じた支援を展開するよう、取り組んで参りました。

今後も、これからの時代に合わせ、個々のニーズに応じた就労支援を職員一同で取り組んで参ります。(食工房ゆいのもり 本橋剛)

利用者意見交換会（ゆいのもりと仲間たち）



2023年9月30日(土)にゆいのもりに通所・入居されている方々にお集まりいただき、意見交換会(次期中期計画に向けて)を開催致しました。今回のテーマは、「皆さんにとっての幸せは何か」「どのような生活をしたいか」「ゆいのもりを利用してよかったことは」「ゆいのもりにどのようなサービスがほしいか」をでした。お話にでた内容は一部、抜粋して下記に掲載させていただきます。

自分にとっての幸せとは何か、 こう生きていきたい	ゆいのもりに支援してほしいこと、 期待したいこと
<p>～ゆいのもり関連～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神安定のため、20時間位働きたい ・通所が気持ちの安定になる ・仲間とプライベートでも交流ができること ・健康で、社会とつながりがあること <p>～プライベート関係～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命したことに喜んでもらえた時 ・仕事をしながら趣味も楽しめる生活 ・今の生活を続けたい ・歳をとっても働いていたい <p>etc…</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを増やしてほしい（旅行など） ・工賃UPしてほしい ・温かみのある明るく楽しい雰囲気にしてほしい ・個室で面談できる場所がほしい ・お弁当・給食の提供 ・仕事と工賃を増やしてほしい ・仕事の種類と量を充実させてほしい ・お金の使い方の練習がしたい ・月1回程度、意見交換会を開いてほしい。 ・サークル活動（作業以外の交流） <p>etc…</p>

当日、ご参加いただきました皆様、貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

お話を聞かせていただいたことで、皆様が思っていること、期待されていること、改善してほしいことを教えていただく機会となりました。数年に一度、このような会を催させていただいておりますが、その度にゆいのもりの可能性を示していただいているなど感じております。いただいたご意見を可能な範囲で、実現できるよう努力致します。

今後も利用者の皆様が「ゆいのもりでよかった」と思っただけのような、法人・事業所ともに尽力して参ります。引き続き、ご協力いただきますよう、お願い致します。(ゆいのもりつつじが丘 日向弘樹)



産業まつり

昭島市産業まつりが11月11日(土)12日(日)の2日間、約4年ぶりに開催されました!

食工房からは2種類のカレーパン、型抜きクッキー・ドロップクッキーを販売。当日はメンバー・職員ともに協力しカレーパンを約1,400個販売することができました! たくさんのお客様にお越し頂き、また、産業まつり後も店舗に来てくださった方もおり、『ゆいのもりのパン屋さん』を知ってもらう良い機会になったかと思えます。

出店にあたり、準備をしてくれた食工房のメンバーの皆様、そしてご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

(食工房ゆいのもり 小林野愛)



ゆいのもりメンバー投稿 今年チャレンジしたいこと



- ・缶バッチの作業で3000個いけるようチャレンジしたい
- ・AIイラストを覚える
- ・一人焼肉に行くこと
- ・少しずつダイエット
- ・手芸の会が続けばいいんですが、続かなくても、私は続けてやります。作品を飾ったら楽しかったです。
- ・一人暮らしの準備
- ・ダイエット
- ・一人回転寿司に行けるようになること!!
- ・仕事がしたい
- ・色んな所に出かけたいです
- ・料理のレパートリーを増やしたい
- ・K-POP ダンス!(入院中 OT で「脳トレとしてしていた運動」と同じことをするためです)
- ・いろんな「勉強」に挑戦したい。
- ・私のチャレンジしたい事はダンスとボイストレーニングです。
- ・スポッチャで卓球やバドミントンをやりたい
- ・チャレンジではないが今の仕事を継続していきたい
- ・就労移行に入りたい
- ・あいぽっく清掃メンバーに入りたい
- ・事故や怪我無く仕事をこなしたい
- ・サッカーの試合を見にいきたい
- ・お願いされた仕事を快く引き受けて動けるようになりたい
- ・ダイエット
- ・山登り
- ・喫茶の仕事パーフェクトにして頑張りたいです
- ・テレビを買う(茶々)
- ・地域の中で一世風靡し中央にのし上がる。政府や放送局は頼りにならない。没学歴が社会を実現させる。子供から大人まで皆を幸福にさせる(山本一郎)
- ・弁当10個作る事(50歳のおじさん)
- ・Aっちと呼んでほしい
- ・今年もあと数日、色々手伝って頂き感謝しています、そして又、来年もよろしくお願い致します。
- ・良い意味で通り過ぎたいです
- ・今年こそブログを毎日更新したい(けんけんぱ!)
- ・休まずゆいのもりに行くこと。(H.E)
- ・去年の10月に引っ越しが終わったので、八王子のヨーロッパ「南大沢」に行きたいです(2019)
- ・お金をためる

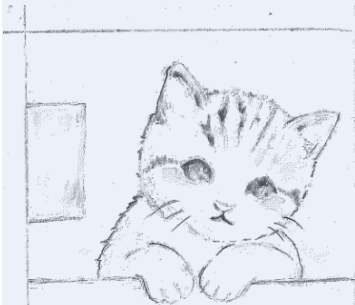
ゆいのもりメンバー投稿

みんなの「推し」を教えてください



- ・なにわ男子の大西流星くん、道枝くん、たかはしきょうへいくん、西城秀樹、中島みゆき
- ・新海誠などの国産アニメ映画
- ・野球 大谷さん
- ・ウルトラマンビクトリー
- ・ウルトラマンギンガ
- ・続けるということ
- ・あいみょん
- ・スポーツ観戦で特に野球 大谷翔平さん
- ・バーゲンで買ったマフラー
- ・ラッドウィンプスというバンドが好きです
- ・テーブルトーク RPG、ダンジョンズアンドドラゴンズ
- ・セブンイレブンさんの「ワッフル」・「エクレア」・「バームクーヘン」が、おすすめです。
- ・私の推しは ONE OK ROCK というロックバンドです。とてもクールでカッコよくてサイコーです。
- ・すみっこぐらし

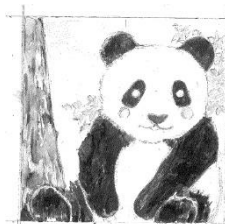
- ・いきものがかり
- ・手作り、タコス、美味、最高！（せんぱい）
- ・健康的に生かせたいです
- ・田口清隆監督
- ・出掛ける事
- ・ガンダム(y.k)
- ・憲法を守りつつ無政府状態を打破し、天才を中心にした社会を成立させる。（山本一郎）
- ・りょこう
- ・音楽(茶々)
- ・YOASOBI
- ・田中彰さん(50歳のおじさん)
- ・フランスで開催されるオリンピック
- ・私が最近好きで外食している店は、「シジャン」です。おすすめは①石焼ビビンバ②チヂミ、です。(2019)
- ・呪術廻戦 五条悟(H.E)
- ・カレールのエスビーゴールデンカレー中辛(けんけんぱ！)



▼東京都共同募金からご寄付

太陽と風 200,000円（社会訓練）

入居者及び退去者を対象とする研修旅行の、長瀬散策と秩父しいたけ狩り日帰りバスツアー費に使わせていただきました。ありがとうございました。



ゆいのもりの最初の一步である「ゆいのもり社」を一緒に作り上げてきた友、斎藤真澄さんが12月1日に逝去されました。60歳という早すぎる旅立ちです。胸が押しつぶされる思いです。うろ覚えですが当時のことを少し書かせてください。

昭和62年、昭島保健相談所の所長遠藤先生と保健師さんたち、昭島市公民館の職員佐直さん、そして精神障がい者の3家族、数名の当事者たちの協力を得ながら、昭島初めての共同作業所づくりを始めました。

昭和63年、私と真澄さんは当時働いていた共同作業所を退職しました。それぞれ生活のために、浅川は看板屋で働き、真澄さんは昭島に転居し、スーパーで働きながら、昭島での人脈を広げていきました。

二人は、働きながら、月2回の保健相談所でのミニデイケア実施、「昭島に共同作業所をつくる会」の月ごとの集まり、年2回の資金作りのためのバザー準備、市内の障がい者家族会へのあいさつ、民生委員会でのあいさつ、昭島市担当課への働きかけと、休日はほぼ、これらの活動で埋まりました。この時から始めたバザーは、市内福祉団体に参加を呼び掛けたことから、その後のネットワーク組織へのきっかけの一つとなりました。また、63年まで働いていた共同作業所の職員、仕事でお世話になった社協の職員と病院のケースワーカーさんたちが同僚や精神科の医師から多くの寄付金を集めてくださいました。ありがたかったです。

共同作業所の認可のためには実績が必要となります。市内30件の不動産屋を回りましたが、物件を紹介してくれる業者はありませんでした。最終的にはつくる会委員の知り合いの方が、所有するアパートの一室を借りました。

昭島市は最初、全く相手にしてくれません。当時の友清節子議員さんが、姉妹が精神科看護師をしていることから興味を持ち、ミニデイケアを訪れてくれました。議会で私たちの作業所づくりを一般質問で取り上げてくれました。その日の傍聴席は、立ち見が出るほどの人で埋まりました。感激しました。

それ以降、市の福祉課に二人の担当者がつきまし

た、後の原野部長さんと佐藤部長さんです。とてもよく話を聞いてくださいました。

ついに、平成元年、都の認可が下りました。前年に、保健相談所と市が共催した講演会で、講師の三枚橋病院の石川信義院長（開かれた病棟の著者）が、地域に集う場所として共同作業所が必要である、その活動は文化の革命であると強調してくださいました。話は飛びますが、開所式では、大熊一夫さんがイタリアの精神病院の話をしてくださいました。

ゆいのもり社という素敵な名前の共同作業所は、6帖2間のアパートです。毎日昼食を作り、希望者と共に外作業に行きました。職員は二人だけ、熱がなくても休めません。

どんどん利用者は増えてきましたが、トラブルも増えました。作業所を日々守る真澄さんの苦勞はいかばかりだったでしょう。作業所運営の経理を含む事務の基本も確立してくれました。ゆいのもり社の誕生からよちよち歩きまでのハードな3年間を完了して、真澄さんは新たな人生に旅立ちます。結婚のため、川越の障がい者施設へと。しっかりと感謝を伝えきれなかったままの別れとなり、今度会った時に伝えようと考えていました

その後は、年賀状での近況報告が続きました。家族と仕事に恵まれた幸福感が伝わってきました。体調のことは一言も触れられていません。突然12月に訃報が届きました。12年前に乳がんを患い、2年前に新たに転移が見つかりました。でも5月まで働いていたそうです。最後は緩和ケア施設を希望され、家族に見守られての天国への旅立ちだったそうです。運動神経抜群で弾ける笑顔の真澄さん。野球帽をかぶってゆいのもりのメンバーとソフトボールに興ずる笑顔が忘れられません。ご冥福をお祈りします。

Life goes on. 悲しいけど、残されたわたしたちは生きていかなくちゃ。

編集後記

皆さんの推し、興味深かったです。私の今年の目標は、推しにお金を使って日本経済に貢献することにしようかな。(蜜蜂)